

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	近隣との関わりを踏まえ、散歩外出、買い物など積極的に取り組み地域の行事にも参加し、管理者、職員が話し合いを持ち地域交流を深め、認知症ケアの実践を広めることを進めている。	利用者が「元気に楽しく過ごせる家」の理念は、月1回のミーティングやケース会議で取り入れられており、日々の申し送りや連絡帳でその理念を共有し実践していることが確認できます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に加入し、地域の行事に参加することで交流を持っている。盆踊り、お餅つき、福祉フェアに出掛けたり、ホームでの行事では夏祭り、お餅つきに来て頂き交流しております。また日々も散歩、買い物を通し顔の見える関係性を高めている	町会に加入し地域の行事に利用者と職員が参加しています。また、事業所の夏祭り・お餅つきには、地域の人の参加もあります。毎日の散歩や買い物の時に、近隣の人たちと挨拶し交流しています。	地域との付き合いは出来ていますが、現地の地域との交流を進める取り組みを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小金原地区高齢者支援連絡会に所属し、会員の方々にGHの見学会を行い、施設とケアの実際を見て頂き、認知症ケアについてお互いに理解を深めることが出来た。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災に関する話し合いにおいて利用者、ご家族の意見を頂き訓練の内容や防災に対する意識が高まった。また、食事を試食して頂き実際をご理解いただけるようになったので、食事の試食会を継続していく。	運営推進会議は地域包括支援センター、民生委員、利用者、家族で行っています。事業者の取り組み内容について報告し、参加者の意見、要望を防災訓練やサービスの向上に活かしていることが確認できます。	運営推進会議に、町会の関係者が参加するよう働きかけて行くことが望まれます。また、運営推進会議が2ヶ月に1回開催されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実地指導を通しよりサービスや記録に対して確実にを行うように意識が高まり、介護保険課との連絡を取ることが増えた。また、GH協議会の事務局としても情報交換の機会が増えた。	市の介護保険課とは必要に応じて、連絡を取りながら相談しています。また、GH協議会の事務局としても協力関係が出来ており、情報の交換をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所より『施錠をしない』を継続し、利用者の行動を出来るだけ妨げないようにし、想いに寄り添うことを続けてきており、「身体拘束をしない」様に取り組んでいる。	玄関は施錠せず、利用者の行動を妨げない様にし、利用者が出たい時は職員が付き添う様にしています。「身体拘束ゼロに向けて」の勉強会を年1回実施しており、資料も職員に配布しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通し『言葉の乱れは心の乱れ』を標語として頂き、職員に意識づけ、利用者や丁寧にかかわるようにしている。また管理者と職員の間で、垣根のない関係性を保つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し成年後見の理解を拭欠けている。また、市民後見人の実習生の受け入れをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居までに見学や体験をして頂くようにし、外部評価の評価表や、契約書等で説明を重ねご理解いただくようにし、疑問があるときはその都度説明にあたるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からのご意見をもとにミーティングにおいて話し合いを持ち自分たちの行っている業務内容とサービス内容について見直しを行っている。	毎月、利用者の生活の様子や行事の連絡を行う「ぼっこだより」を発行しています。家族の来訪時や電話・アンケートで意見や要望を聞き、ミーティングで話し合い運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング、日々の声掛けで言葉を交わし職員の意見を聞く機会が多く、意見を交わすことで介護の充実に繋がっている。	毎月のミーティングや日々の声掛けで職員の意見、提案を聞く機会を設けています。調理職員を増やして欲しいという意見があり運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員配置を多くすることで、ゆとりの持てる対応に結びつき、それぞれがコミュニケーションをとることで職場の環境が明るくなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	更なるスキルアップのため、資格の取得や研修の参加の呼びかけをし、職員間でも情報の共有を行っている。また研修会の参加により次の目標が見つかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市GH協議会に加入し、同業者との情報交換や交流会やセミナーに参加し交流を深めている。また、医療連携の取り組みにも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ミーティングにて新規の方の概要を伝え、職員が関わりやすいようにし、ホームでの不安を聞き、生活リズムを作りながら他者との交流を含め話しかけを多くしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体験や見字をすることでホームでの生活が見えるようにし情報開示をしながら、ご要望を聞き無理のない生活が送れるようにしている。また、医療との連携の在り方看取りについても説明し信頼関係を高める様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活歴をもとに対応を考え、初めはご家族の協力をして頂きながらご本人の要望に応えられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事や手伝えることを探しながら、困っていることを減らし、ホームでの役割や楽しみを他者と共に考える。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会や、ぼっこだよりを通しホームでの生活の様子を伝え行事や会議に参加して頂きながらごほんとの時間を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅に出掛けたり、知人に訪問して頂いたり、よくいかれていたお店や美容室を利用している。また、同じお店を利用していくことでなじみの関係が出来てきている。	知人が来訪したり、利用者の自宅や馴染みの商店・美容室に行くなど地域とのつながりを継続できる支援をしています。また、近くの同じ店を利用して行くことで新しい馴染みの関係が出来てきています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの座席に気を配り関係性の高まるようにし、レクや活動を多く取り入れ交流を深めている。また、1・2階の垣根がなくお互いに行き来しながら多くの方と関わりを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からのご相談を受けたり、ご報告を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家に帰りたいというご希望に対応したり、～したいという声を聴きながら外出や外食などの行事に組み込んだり、毎日の日課に取り入れている。	利用者の思いや希望は、日々の関わりのなかで聞いて、希望に添えるようにしています。把握が困難な場合は、日々の行動や表情から汲み取り、本人の思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報と持参されているお荷物などから以前の生活をお聞きし、センター方式の用紙に落としている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアを通し細かいところまで観察し記録しながら状態の変化に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状態を報告しご家族の要望を把握し医療側の情報を組み入れ、職員間で考える上でご本人の生活の楽しみにされていることや、出来る事に視点を置くようにしている。また、ご家族との関わりを持てるようなプラン作りをしている。	本人や家族の要望を聞きながら、ケース会議やカンファレンスで、担当職員の意見も取り入れ、利用者がより良く暮らせるように、また家族との関わりを持てるように、全職員でミーティングしており、介護計画を作成する時に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の記録だけでなく、アセスメントや評価、ケアの変更などをしっかり記録していくようにしている。職員は記録を読むようにし、状態の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の業務にとらわれることなくその時に必要なサービスやケアに対応できるように、人員の配置を多くしながら個々の要望に応えられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会の行事に参加することで社会参加を進めている。また、図書館を利用したり選挙の投票に行かれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を取りかかりつけの医師の継続であったり、各自の訪問診療先を決めている。、訪問診療の医師とは看護師と職員で状態の報告・確認をしており、ご家族の診療の立ち合いや、面談の機会を作っている。	入所前のかかりつけ医の受診は、家族が通院しています。訪問診療は個人契約なので、各自の訪問診療先は、本人と家族が決めています。診察の時には、家族が立ち会うこともあります。医師とは、看護師と職員の間で情報を確認しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の細かな観察をすることで、早期発見が出来ており看護師に報告し医師への報告・診察が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や医師に相談しながら、入院についての判断をし、必要に応じて最小限の入院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したときの指針を説明し家族・医師・職員と方針の確認をしながら、終末にかけては不安のない様に支援を深めている。また、他の利用者やご家族や支援者に隠すことなくホームでの看取りに参加して頂き理解を深めている。	重度化した時の指針は契約書に記載しています。必要に応じて本人や家族に説明し、確認しています。又、医療を伴うケアについては、チームで早めに対応しています。事業所で出来る支援について家族に説明しながら、終末期に向けた支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングにおいて応急処置の手順を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議において防災の話し合いを持ち、意識を高め、訓練に結びつけている。	災害時の停電に備えて、懐中電灯を用意し電池も多く備蓄しています。避難訓練は、通所と協力して夜間を想定して行うようにしています。ハザードマップでの確認もしています。	近隣の地域住民との協力体制を構築する事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの勉強会を通し、言葉は心の乱れに繋がらないように、お互いが確認しあい、利用者の尊厳を保持できるように心がけている。	言葉は、心に大きく影響し、行動に影響を与えることから言葉かけの勉強会をしています。標語を目に付きやすい所にも掲示しています。職員はお互いに確認し合い、利用者の人格や誇りの保持に心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方に寄り添いコミュニケーションをとることで心の声に耳を傾け、気持ちの確認や希望を受け取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に流されることなく、その方が楽しく過ごせる時間を作るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に買い物に行ったり美容室に行ったり、その方らしい洋服や髪型を継続できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物では食べたいものを選んだり、味付け盛り付け片付けなど、食事の楽しみ役割が出来ている。外食・手作りおやつなどの機会を作り楽しんでいる。	食事は、オープンキッチンで調理しているので、利用者は職員と一緒に食事の出来上がるのを楽しみに手伝うことができます。また、グループで食べたい所で外食したり、手作りのおやつを作ったりして楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量・水分の量のチェックをし食べたいもの食べやすいものの工夫をしながら、栄養等の確保をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、入れ歯の洗浄、口腔内の観察をしながら訪問歯科と協働しながら、肺炎予防と口からの食事がとれるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	車椅子の方もトイレでの排泄を続けることで失禁を減らし排泄の習慣を続けている。	排泄のチェック表で排泄のパターンを把握しています。習慣やタイミングを考えて声掛けをしてトイレへ誘導しています。失禁を減らし、トイレでの排泄を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や乳製品の食事と、散歩や体操の運動に気を配り、便秘が続かないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望や体調を見ながら、時間や回数はとられず、入浴している。	午後に入浴する事が多いのですが、利用者の体調によっては、午前中に入浴することもあります。本人の希望する時間に入浴する事も可能にしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団干しシーツ交換を定期的に行い環境の整備に気を配り、足浴をしたり日中に活動をし、睡眠に繋がるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師より薬の説明を受け看護師・薬剤師と共に薬の管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や掃除・家事・洗濯などそれぞれ得意なことを行い、ある方は、歩道の掃除を毎日行うことを生きがいとしてつづけている。嗜好品としての飲酒は時折楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の外出や買い物は希望を聞き、散歩しながらのコンビニに行ったり、車での外出を多くしている。また、希望者は温泉に一泊旅行にも出かけている。	戸外へは、希望に沿って買物や散歩など、日々かけています。本人の希望によっては、そのほかにも、映画・歌舞伎・選挙など、又、足浴や自分の家を見に行ったりの支援もしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自お金を持てるようにしたり、ホームで預かりご本人が使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出したり、携帯電話の利用を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周囲の環境は木々も多くウグイスの鳴く静かで落ち着ける場所で、散歩もしやすく講演も近くにある。ホーム内は季節ごとの飾りつけをしたり生け花を飾ったり、廊下には行事の写真や作品があり会話の一つになっている。また、全館床暖房が完備されている。	利用者と訪問した人と話ができるように居間の片隅には、ソファとテーブルを設置しています。部屋の外にある、回廊型のつながった木製のベランダは、物干しのほかにも散歩したり、桜のころにはお花見の席にもなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの他者との交流とオープンキッチンとなっているので調理職スタッフとの交流がしやすい。ソファや和室での空間では少人数での関わりが出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族の写真や各自の好みのもので置かれている。畳の部屋もあり、落ち着いた雰囲気の中で布団での生活の継続が出来る。また、床暖房を完備している。	利用者は家具や寝具など使い慣れた物を持参して、カーテンも好みの物を準備しています。布団を利用する人には、畳の部屋もあります。家族と一緒に撮った写真や思い出の品々を飾り本人好みの部屋にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋やトイレの場所をわかるようにしたり声を掛け不安のない様にしている。外掃除やゴミ捨てを2階からお一人で出するなど、その方の状態に応じてホーム内も外も活動できるようにしている。		